

《題目》“よいしょ”で出世した社員 その 1

私は結婚した時に、当時のバイオケミカル事業部長に仲人をして貰いました。会社の同僚で、この事業部長に仲人をして貰った人がおり、結婚式を上げる前のある日、事業部長の自宅に呼ばれた際に、その人も来ており、この事業部長に仲人をして貰ったことをしました。仮に、その人の名前を X 氏とします。結婚後、数か月を過ぎた頃から、その事業部長から度々『お前は気が利かないな。X を見習え！』と時々言われるようになったのです。私は意味が判らず、意味するところを尋ねました。すると、その事業部長は、『X は、俺の同窓会があると聞けば、片道 2 時間でも 3 時間でも送ってくれ、翌日も迎えに来てくれる。同じ事をしろとは言わないが、お前も少しは見習ったらどうだ』とのことでした。私は、会社の上司達に、お中元やお歳暮を一切送ったことはありませんが、仲人をして貰った、この事業部長には、毎回厳選した高価なものを送ってきました。しかし、このことを聞いてから、毎回、サントリーウィスキーの Royal だけを送り続けました。『こんな事で差別するなら、してみろ』それが私の答えでした。しかし、その事業部長は、私に目を掛けてくれ、一方で様々な指導激励もしてくれた人でした。

それから数年して、その事業部長は、バイオケミカル事業部の No.2 に貶められ、会社を去ることになり、次の事業部長には、No.2 だった人になりました。この No.2 から事業部長になった人は、“よいしょ”好きで、それは凄い人ですが、その話は、ここではしません。さて、それから 1 年程で、X 氏は係長に出世しました。別の同期の友人に聞いたのですが、彼の新しい事業部長への『“よいしょ”は、すごいよ』と。日本企業の多くは、年功序列、もしくは、上司の好き嫌い（すなわち、自分の意見に反対しない＝“よいしょ”で、昇進が決まることが多いのではありませんか？

さて、この『幫間君』と私のその後については、次回にて！